



新しい学習方法への試み

校長 新井 篤志

新年あけましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルス感染防止に向けての対応で学校教育も大きな影響を受け、従来の教育活動ができない状況になりました。今年もまだ新型コロナウイルス感染防止に向けた取組は進めていかなければなりません。保護者並びに地域の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

そんな中、昨年末に家庭と学校とのオンラインでの接続テストのご協力のお願いをいたしました。横浜市委員会では、感染症の拡大等による臨時休校に際して作成した学習動画を試行的に配信し、各家庭での接続状況を確認するために行いました。学校から一人一人に配付されたアカウントやパスワードを用いて、手順書の通りご自宅のスマホやタブレット、パソコンなどを利用して設定をしていただきました。昨年の4月・5月に臨時休校になった際に、学校で行えない授業を動画配信で試みました。それを本格的にできるようにしようとしています。そして、一方的に見るのではなく、子どもたちが主体的に関われるように双方向の学習を念頭において整備を進めていく予定です。

こうした取組は、今年度大学の講義で行われていました。大学が指定するパソコンのアプリを活用して授業を多くの学生が受けていました。オンラインを使って、先生や学生同士が話し合ったり、レポートを作成して送ったりして学んでいました。しかし、やはり対面の授業は大事と考え、オンラインの授業も大切にしながらも、後期や来年度の授業からは感染症対策を踏まえて取り組むところが多くなりそうです。

小学校も今行っている対面の授業を工夫して行うことがやはり重要だと考えます。実験や実習をする学習はクラスの人数が多い場合は半分に分けて行ったり、教室を2つ使って活動したりしています。こうした工夫を生かすためには、先生の指導方法を改善していかなければなりません。その一方で、オンラインを活用した学習方法も授業に取り入れていくことも考えています。教室の中で一人一人にタブレットを渡し、自分の考えを書いてもらい、みんなで見合ったりそれをもとに意見交換をしあったりすることで主体的な学習につながると考えます。また、家庭学習を進めるのには新たな期待となるかもしれません。子どもたちが興味・関心をもって学習のきっかけになってくれたらと思います。

令和3年は、学校教育全体が大きく変わっていく年ともいえるかもしれません。ニュースでは1年生だけの35人学級を全学年にしていくという話も出てきました。制度そのものも変化が表れ始める年になるかもしれません。しかし、私たち教師は、子どもたち一人一人のその子に合った成長を大事にして指導していくという不変の考え方を大事にしていきます。

